



和装本
7 13
6435
1



門 713
號 6435
卷 1



早稲田大學 圖書館
器 27.1.22 雙
藏 ▲ 書

監獄則

緒言

獄トハ何ソ罪人ヲ禁鎖シテ之ヲ懲戒セシム
ル所以ナリ
獄ハ人ヲ仁愛スル所以ニシテ人ヲ殘虐スル
者ニ非ス人ヲ懲戒スル所以ニシテ人ヲ痛苦
スル者ニ非ス
刑ヲ用ルハ已ヲ得サルニ出ツ國ノ爲メニ害
ヲ除ク所以ナリ獄司欽テ此意ヲ體シ罪囚ヲ



監獄則

遇ス可シ

綱領

獄ニ七大綱アリ曰興造曰繫獄曰懲役曰疾病

附苑三

曰處刑曰官員曰雜則其詳ナル丁ハ條

目ニ悉ス

○興造十二條

第一條規模

監獄ハ市街ヲ隔テタル空閑高燥ノ地ヲトシ
其區域ヲ大ニスヘシ圖式ニ見ユル所ノ各遊

園中縱横ノ小徑ニ砂石ヲ布キ左右ノ餘地ニ

藥草及美花佳實アルノ草木ヲ雜植シ罪囚ヲ

シテ心神ヲ怡ハシ新鮮ノ氣ヲ吸入セシメ且

販賣ノ一利ト爲ス

各舎ノ位置構造方法ハ圖式第一號及ヒ附圖ニ見ユ

凡監獄ヲ構造スルニ其制都鄙大小ノ別アリ

ト雖凡皆石造スヘシ若シ其地石ニ乏ケレハ

煉火石ヲ代用ス只其制ノ堅牢ナレンヲ要ス

隅角房口子門ノ左右上下等ハ必ス石ヲ用フ

ヘシ櫺格ノ如キハ鍊鐵ヲ用フ

守卒看守所ノ制ハ圓形室ヲ獄舎四通ノ中央ニ設ケ一目洞視シテ障蔽ノ弊無ラシム此レ守卒ヲ省減スルノ法ナリ詳ニ圖ニ悉ス

四周墻屏ノ制悉ク石造スヘシ或ハ煉化石ヲ代用ス高サ三四間内外近邊ニ竹樹等ノ攀援スヘキ者ナキヲ要ス墻頂或ハ圓形或ハ三角

稜ニ作ル其上ニ破裂ノ鑿片ヲ布植シ踰越スヘカラサラシム鑿片ヲ植ル法三和土ヲ用フ赤土或ハ河砂ト等分埴埴シテ之ヲ用フ

獄ノ内外渾テ汚物ナキヲ要ス先ツ土地ノ高低ヲ量リ各處水道ヲ穿チ能ク潦水ヲ疏通シ毎舎ノ雨霤及ヒ日用ノ水渣ヲ送テ遠地ニ致シ周墻外ト雖凡死水ノ溝渠ヲ置クヘカラス獄中ノ濕氣ヲ防ク所以ナリ水道ヲ作ルノ法用フ三和土ヲ以テ其縫隙ヲ塗ル獄舎ノ制ハ樓二層若クハ三層ナルヘシ每層ノ中央ニ登降ノ梯階ヲ設ケ左右數十房ヲ區別シ一房一囚ヲ法トス然凡已ヲ得サレハ一

房ニ五人ヲ容ル一人以上奇數ヲ用テ偶數ヲ用ヒス其猥褻ノ丁有ルヲ防クナ其食事所夜具所等ハ之ヲ每層ノ一隅ニ設ク

房ノ四壁皆聖土ヲ塗リ塵埃ヲ滯メス且光線ノ反射ヲ生セシム

一四ノ房一丈立方ト爲ス英人ノ說ニ一人ノ房立方尺一千ナラ

サレハ康健ニ害アリト云フ然レ一房ニ三人五人ヲ容ル、

モノハ之ニ準シ斟酌スヘシ

二層三層ノ床ハ堅牢ノ板ヲ用フ最下ハ土床

ニシテ石或ハ煉化石ヲ用ヒ三和土ヲ埴埴シテ填實スヘシ

凡衆犯晝ハ出シテ各工役ニ就ケ日暮ハ各其

房ニ入レ關鎖ス每房容ル者ハ只卧具ト大中

小ノ三桶トノミ大桶ハ便器ニシテ蓋アリ以テ惡臭ヲ防ク中桶ハ水ヲ盛

ル以テ飲料ニ供ス小桶ハ唾器毎朝他物ヲ入

之ヲ出シテ自ラ其汚穢ヲ洗滌ス

第二條未決者ノ監

監獄ノ制及ヒ運動場ヲ置ク等他ノ獄舎ニ異

ラス只未決者ハ已決者ト相交ルヲ禁スルノ
 ミ
 凡浴場炊所廁園所等ノ制ハ一小屋ヲ運動場
 中ニ建テ内ニ煉化石ヲ疊ミ壁ヲ築キ以テ中
 分ノ界トス其一半ヲ炊所トシ餘ノ一半又之
 ヲ分チ二ト爲ス一ヲ浴場トシ一ヲ廁園ト爲
 ス凡炊夫ハ未決者伍ヲ結ヒ輪番又別ニ浴場
シテ食ヲ作ル丁繫獄條ニ見ユ
 ヲ設ルモ可ナリ炊所浴場共ニ煉化石ヲ以テ
 之ヲ製スヘシ火災ヲ戒ム故ナリ

食堂ハ別ニ之ヲ設ク若シ別ニ之ヲ設ケサレ
 ハ之ヲ運動場中ニ食セシムルモ亦可ナリ雨
 日ニハ之ヲ獄舎ノ簷下ニ食セシムルヲ便宜
 トス

第三條 已決者ノ監

役囚懲役場ニ出テ工ニ服スル者ハ嚴ニ其疆
 域ヲ區別シ未決者ト往來混淆スルヲ聽サス
 已決者ノ監制ハ未決者ノ監ト異ナル無シ但
 暗室一二ヲ每層ノ旁ニ造テ獄法ニ違ヒ或ハ

佯テ疾病ト稱スルモノヲ懲ス暗室中ニ鐵網孔ヲ穿チ空氣ヲ通シテ光線ヲ通セス

第四條 食堂

食堂ハ每獄ノ下層ニ設ク長飯案及ヒ長椅子ヲ置ク役囚ヲシテ會食セシム若シ其食堂ナキモノハ之ヲ運動工役場中ニ食セシム若シ犯人ノ混淆ヲ忌ムモノハ食堂ヲ異ニス

附錄

炊室ハ前門ト中門トノ間ニ設ク守兵所ト相對ス兩舍共ニ玻璃障ヲ用ヒ守兵ノ

坐シテ炊夫ノ動作ヲ洞視シ失火ヲ警メ不法ヲ監督スルニ便ニシ別ニ守兵ヲ置ノ費ヲ省ク但炊夫ハ役囚ヲ用フ故ニ一獄丁ヲシテ日ニ炊室ニ在テ之ヲ監視セシム前門ヨリ中門ニ至ルノ間若干間アリ右ヲ獄司ノ宅トシ次ヲ炊室トシ左ヲ副司ノ宅ト爲シ次ヲ守兵所ト爲ス

第五條 浴場

浴場ノ多少ハ監獄ノ大小ニ由リ二三乃至五

六トス毎日犯人ヲシテ役畢テ浴ニ就カシム
夏ハ水冬ハ湯

未決者ノ監ハ每舎ニ浴場ヲ置ク
各房接續舎ハ一方ニ設

浴場石或ハ煉化石ヲ以テ之ヲ造リ失火ヲ防
ク焚夫亦犯人ナルヲ以テナリ

附録各獄ノ井ハ每井桁ニ堅牢ノ鐵網ヲ蓋
フ以テ各犯ノ投汲ヲ防ク網中ニ通瓶ノ孔
ヲ穿チ以テ水ヲ汲ム瓶綬亦鐵鎖ヲ用ユ豫

メ切斷シテ塀ニ縋スルヲ防ク

第六條運動場

未決者ハ懲役ヲ命セス故ニ時時獄園ニ出テ
逍遙シ花樹ニ灌キ藥草ニ培ヒ以テ其身體ヲ
養フ已決者ハ毎日服役動作運養以テ其筋骨
ヲ健ニス雨日ニハ各獄中ニテ運動ヲ爲シム

第七條懲役場

罪己ニ決シ懲役ニ服スル者ハ各般ノ工業ニ
因テ役場ヲ異ニス飲食ノ如キモ亦工業ニ從

テ直ニ役場ニ食ス

第八條 女監

女監ハ建築ヲ別ニシ男監ト相接セス其往來
ヲ峻拒ス懲役場運動場厠場浴場炊場等ノ如
モ亦他監ト同クセス

第九條 病監

病監ハ最高燥ノ地ヲトス可シ監中唯未決已
決ノ囚ヲ區別スルノミニシテ各囚ノ房ヲ區
畫セス窓戸ヲ寬廣シ生氣ヲ疏通シ四外ニ清

潔ノ遊園ヲ開キ花卉ヲ植テ以テ病囚ノ遊觀
ニ供ス

第十條 懲治監

此監亦界區ヲ別チ他監ト往來セシメス罪囚
ヲ遇スル他監ニ比スレハ稍寬ナルヘシ
二十歳以下懲役満期ニ至リ惡心未タ悛ラサ
ル者或ハ貧窶營生ノ計ナク再ヒ惡意ヲ狹ム
ニ嫌アルモノハ獄司之ヲ懇諭シテ長ク此監
ニ留メテ營生ノ業ヲ勉勵セシム
二十歳以上ト雖モ逆

意殺心ヲ狹ム者ハ獄司ヨリ裁判官ニ告ケ尚
此監ニ留ム

平民其子弟ノ不良ヲ憂フルモノアリ此監ニ
入ントヲ請フモノハ之ヲ聽ス

凡輕囚ヲシテ書籍ヲ習讀シ工業ヲ練熟セシ
メ能ク艱苦ヲ忍ヒ改心シ以テ才藝ヲ成スモ

ノハ拔擢シテ監獄ノ下吏トスルヲ聽ス

平民罪ヲ犯シ贖罪スヘキ者無力ニシテ情實

贖スルト能ハサルモノ、實決シテ懲役スル

如キハ皆此監ニ入ル

脱籍無産復籍シカタキ者本刑懲役ノ限滿チ

シ後ハ皆此監ニ移シ罪囚ト區別シ工藝ヲ習

慣セシメ獨立活計ノ目途ヲ立然ル後本人望

ミノ地へ入籍セシム

工藝ニ練達スレハ他囚
第一等ノ工錢法ニ從ハ

第十一條寬役場

場中ニ田畝ヲ闢キ衆役ヲシテ蔬菜ヲ播種シ

或ハ牛羊豚雞ヲ畜養シ或ハ牛乳ヲ搾リ羊酪

ヲ製シ或ハ總囚及ヒ動物ノ糞溺ヲ取テ田畝

ヲ培養ス

寛役場ハ獄外便利ノ地ヲ擇テ之ヲ設ク其制
ハ尋常民舎ニシテ四周ニ垣墻ヲ設ルノミ其
役徒ヲ遇スル最寛裕ナル可シ

凡犯人癯疾及ヒ盲人其他服役中疾病ニ罹リ
殘疾ニ至ル者ハ尋常役ヲ執シメス皆此場ニ
入ル

休暇日各囚ヲ獄内ニ召シ整列シテ獄司ニ見
ヘシム

若シ此場ヲ監獄場中ニ設クルトキハ之ヲ石

造ニシ火災ノ憂ナカラシム

第十二條官署

官署ハ中門内ニ設ケ囚人ノ出入必ス其舎前
ヲ過ルヲ要ス其廣狹ノ如キハ適宜ニシテ可
ナリ

獄司以下毎日出席シテ事ヲ執ル退出ノ後ハ
書記官及醫各一名輪番宿直ス

○繫獄

未決者繫獄中ノ則目左ノ如シ

- 一 懲役ヲ命セス
- 一 獄衣ヲ着セス
- 一 工業ヲ營ント請フ者ハ之ヲ聽シ且其器械ヲ貸シ與フ若シ其人罪ナキニ決スレハ獄中ニ營ム所ノ工錢ハ悉ク之ヲ與フ只器械ノ損價少許ヲ官ニ收ムルノミ若シ罪アルニ決スレハ從前ノ工錢ハ前例ニ從テ之ヲ給シ爾後ハ懲役ノ例ニ入ル
- 一 其親戚ヨリ衣食ヲ贈與セント請フモノ

- アレハ之ヲ聽ス但シ食物ハ醫ヲシテ檢査セシメ衣服ハ包藏物ヲ嚴査ス
- 一 書信ハ囚ノ情願已ヲ得サル丁アレハ獄司裁判官ト商議シテ之ヲ聽ス
- 一 監中日没後ハ談話ヲ禁ス
- 一 裁判官其輕罪ナルヲ察スレハ其親戚若クハ故舊兩人以上ニ保責シ證書ヲ納レシメテ其家ニ還ス
- 但證書ニハ若シ囚人遁逃スレハ律法

ニ依リ罰ヲ受ク可キヲ書載ス

一 裁判官其重罪ナルヲ察スレハ事毎ニ指

揮シテ嚴密ヲ極メシム

一 重典ニ處スルノ罪ナシト雖凡其人奸猾

且屢法ヲ犯シテ悔サル者ハ之ヲ處スル

丁他ノ輕囚ト同シカラス亦事毎ニ之ヲ

嚴ニス

一 各囚毎朝其居ル所ヲ掃除スヘシ

一 食糧ハ五人ヲ一連ト爲ス内一人炊事ヲ

執ル五人輪炊五日ニシテ初メニ復ル未決

監及ヒ炊場石造ナラハ輪炊法ヲ用ユ若シ火災ノ恐レアラハ合炊配與法ニ從フ可シ

○懲役十二條

第一條常人懲役

常囚罪已ニ決スレハ先ツ重鎖ヲ着シ第五等

ノ役ヲ執シム一百日ヲ經過スレハ第四等ニ

進メ輕鎖ヲ着ク四等ノ限ヲ經過スレハ第三

等ニ進メ兩鈇ヲ着ス三等ノ限ヲ經過スレハ

監獄則

十二

第二等ニ進メ片鉄ヲ着ス二等ノ限ヲ經過ス
レハ第一等ニ進メ戒具ヲ脱ス但監外出役ノ
日諸囚皆長鎖ヲ用ヒ二人一連ト爲ス
重鎖輕鎖長鎖
ヲ用ル方圖式第三號ニ見ユ

第二條殊藝

工藝アル罪囚第五等ノ役ヲ經過スレハ其長
技ヲ專治セシム此ヲ殊藝ト名ク殊藝人ヲ分
テ上中下三級ト爲ス異能妙技アル者ハ直チ
ニ上級ニ進ム次ナル者ハ之ヲ中級ニ置ク又

其次ヲ下級ト爲ス

分級ハ物價ニ本ツク警ハ一日間ニ價一圓ノ物ヲ

製スル者ヲ上級ト爲シ七十五錢ヲ中級ト爲シ五十錢ヲ下級ト爲スノ類ナリ

ハ兩鉄ヲ用フ中級ハ片鉄ヲ用フ上級以上戒
具ヲ脱ス但長ク下級ニ在ル者ト雖凡常人懲
役ノ第四等ノ限ヲ經レハ片鉄ヲ用ユル丁中
級ノ例ノ如シ第三等ノ限ヲ經レハ下級中級
共ニ戒具ヲ脱スル丁上級ノ例ノ如シ

第三條老幼

老幼及ヒ天稟虛弱或ハ病後ノ罪囚ハ始ヨリ

欄中細註ノ一
等日數ハ懲役
表欄外附載ノ
條ヲ参照ス可
シ

輕鎖ヲ着シ輕役ヲ執シム後チ兩欵ト爲リ片
欵ト爲リ及ヒ戒具ヲ脱スルノ限ハ常人懲役
法ノ例ノ如シ譬ヘハ常人懲役表ノ徒一年ノ
如キ第五等ノ一
百日ト四等ノ
一百日ト三等ノ
七十日ト二等ノ
四十日ト一等ノ
二十日ト
一 百日ト合テ二百日ヲ輕鎖ノ限トス三等ノ
七十日ヲ兩欵ノ限トス二等ノ四十日ヲ片
欵ノ限トス一等ノ四十五日ヲ戒具ヲ脱スル
ノ限トス但十五歳以下ノ男ハ始ヨリ戒具ヲ
用ヒス

第四條婦女

婦女ノ役ハ粗老幼ニ同シ但始ヨリ戒具ヲ着
セサルト早ク一等ニ進ムルトノ異アルノミ

第五條役法

常人懲役ニ五等アリ每等ノ役法左ノ如シ

第五等

土石ヲ運搬シ荒地ヲ開墾シ米ヲ

舂キ油ヲ搾リ石ヲ碎クノ類ナリ

碎石ハ
街道ノ

修繕ニ用フ土石運搬ニ便ナル車アリ圖
式第四號ニ見ユ

第四等

諸官邸ノ造營街路ノ修繕瓦陶煉

化石等ノ調土及ヒ耕耘ノ類ナリ

煉化石
製造諸

器圖式第五號及附圖ニ見ユ

第三等

木工竹工籐工鍛工石工桶工瓦工

履工及ヒ皮革工麤織工ノ類ニシテ一課
專業ヲ許ス

第二等 第三等ト同シ但其長技ヲ以テ他

四ヲ教授セシム或ハ之ヲ炊夫門番中門番ヲ

謂等ニ使用ス

第一等 第二等ト同シ但此限ヲ滿レハ放

免ス

輕懲役ハ老幼婦女ヲ役ス掃洒洗滌裁縫紡織

絢繩製藥養雞豚牧牛羊ノ類ナリ絢繩ニ簡便
器械アリ圖

式第六號ニ見ユ

四等五等ハ監外ノ重役ニ服ス之ヲ外役ト名

ク三等ニ進メハ監内ノ輕役ニ服ス之ヲ内役

ト名ク内役ノ中又ソノ類ヲ分ツヲ要ス譬へ

ハ竹工十人ヲ一連トシ同所ニ工作セシム籐

工織工ノ類モ亦然リ

愚鈍ニシテ工藝ヲ教ユヘカラサル者ハ四等

ノ限ヲ經過スト雖凡猶外役ニ服セシム外役
スレ

ハ外役者ノ一連タリト雖凡三等ノ人タルハ
勿論ナリ

第六條刻限

囚人曉第六字ニ起キ各自ノ便器唾壺水桶ヲ
 洗滌シ畢リ喫飯ス第七字役ニ就ク第十一字
 ヨリ放役休息ス午飯後第一字再ヒ役ニ就キ
 第五字ニ至ル服役ノ時限八字間ト爲ス五字
 終役ノ後浴シ飯シ六字房ニ入り閉扉ス
 但五月朔日ヨリ七月晦日ニ至ルノ間午後
 第二字迄放役シ夕第六字終役ノ限ト爲ス
 各囚ヲ檢閲スル一日ニ四次曉第六字後朝飯

欄中ノ字ハ皆時ニ作ル

欄中ノ朔ハ一晦ハ盡ニ作ル

ノ時第十一字休役ノ時第一字再役ノ時暮第
 六字入房ノ時ト爲ス每次獄丁其管スル所ノ
 囚人ヲシテ追次整列セシメ獄司及ヒ副司丁
 長之ヲ點檢ス獄丁一名十四ヲ管ス丁長一名
 第七條年限

懲役百日以下ニ該ル者ハ第五等ノ重役ニ服
 セシム從前ノ答杖ニ該ル者ハ響ヘハ答一十
ハ重役十日杖一百ハ重役一百日ト爲
スノ類 徒罪一年以上第五等ヨリ第一等ニ進
 ムノ日限年限ハ表ニ詳ナリ表ハ圖式第七號
ノ上下ニ見ユ

凡老幼婦女收贖ス可キ罪ヲ犯シ無力ニシテ
追徴スルコト能ハサル者竝ニ折半減等法一從
ヒ役ス 折半減等法ハ新條例ニ詳ナリ

老幼婦女ハ終始輕役ニ服スト雖モ其第一等

ニ進ムノ期限老幼ハ常囚ノ如ク婦女ハ少シ

ク之ヲ速ニス其詳ナルコトハ表ニ見ユ 譽一ハ

他囚ニ於テハ二等以下每等ノ合數三百十五

日ニシテ一等ノ限ヲ四十五日トス婦女ハ二

各役各等期限ノ表ニ見ユル者ハ定則ナリ時

欄中細註ノ一
等日數ハ第十
三葉欄外附載
ノ條ニ同シ

アリテ其等級ヲ黜陟シ歲月ヲ延縮スルハ特

典ナリ賞罰ノ條ニ見ユ

第八條賞罰

第五等ノ一百日間ハ賞典ヲ用ヒス

第四等ノ者能ク獄則ヲ守リ且技巧アリテ 殊

ニ至ラサル者其期限ハ半ヲ過レハ專ラ其技ヲ執ル

コトヲ聽ス

准流ノ囚能ク獄則ヲ守リ工役ヲ勉ムルコト他

囚ニ勝ル者ハ第一等期限ノ半ヲ過キ放免ス

ル特典アリ 特典ニ處ス可キ者ハ獄司具狀シ
裁判官ニ告ケ其許可ヲ經テ之ヲ
施行ス

但徒罪以下年限短キモノニハ此典ヲ施サ
ス

終身懲役ノ者ハ一等ニ進ムノ後三年ヲ經ル

ニ非レハ特典ヲ施ス丁ヲ聽サス

罪囚ヲ罰スル六則アリ一曰棒鎖二曰貶等三
曰鐵丸四曰擔重五曰暗室六曰懲鞭

第一則棒鎖 鐵棒ヲ兩足ニ緊鎖シテ佇立

セシム其時間ニ半日終日ノ別アリ凡ソ

獄則ヲ犯シ輕キ者ハ此罰ヲ用ユ 棒鎖ヲ
用ル法

圖式第八號ニ見ユ

第二則貶等 第一則ノ罰ヲ受ケ改心セサ

ル者本等ヲ貶シ次等ノ役ヲ執シメ五十

日ヲ過キテ本ニ復ス 譬ヘハ徒罪一年第
四等ノ期限ヲ百日

トシ本等ニ在ル三十日ニシテ貶等セラ
ル者ハ第五等ノ役ニ服スル丁五十日
ニシテ再ヒ本等ニ復シ通計八十日トス
又本等ノ役ニ服スル通計百日ニシテ第
三等ニ進ム餘ハ類推スヘシ

但五等ノ者ハ等ノ貶スヘキ無キヲ以テ第三則ノ罰ニ擬ス

第三則鐵丸 兩手ヲ伸ヘ重サ二貫五百目乃至三貫目ノ鐵丸或ハ他物ヲ其掌上ニ

置キ洋時一二字間長サ五六十間ノ地ヲ往來セシム

第四則擔重 兩石或ハ兩水桶ノ重サ十八貫乃至二三十貫ノ物ヲ一荷トス往來ノ

距離及ヒ時間ハ上條ニ同シ

欄中ノ洋ヲ刪
リ字ヲ時ニ作
ル

第五則闇室 囚人ヲ闇室ニ入レ飯水ノミ

ヲ給シ人ト言語ヲ接スルヲ許サス七晝

夜ヲ以テ期トス若シ改心セハ其限ニ滿

タスト雖モ免シテ之ヲ出ス

第六則懲鞭 懲鞭ヲ加フルノ法ハ先ツ其

罪囚ノ手足ヲ甘字架ニ緊綁シテ其臀ヲ

笞ツ其數一十ヨリ三十二至ル

甘字架ハ圖式第十號ニ見ユ

但懲鞭ヲ加フル前へ獄司醫ヲシテ罪

囚ヲ診察シ其病ナキヲ證記セシム

脱監逃亡等ヲ企ル者ハ之ヲ第一則ノ罰ニ處

シ更ニ其偏袖ヲ淺綠色ト爲ス再犯ノモノハ

第二則ノ法ヲ以テ之ヲ罰シ其兩袖ヲ淺綠色

ト爲ス三犯四犯ニ至ル者ハ其偏髻ヲ剃ル

監外ニ出役スル者竊ニ禁止ノ物ヲ包藏シ或

ハ妄ニ物品ヲ汚損シ虛病ヲ稱スル者等皆之

ヲ第一則ノ罰ニ處ス病ノ虛實ハ醫ヲシテ嚴

但第一則ヨリ第六則マテノ罰ハ獄司之ヲ

專決ス未決者ハ犯ス毎ニ第一則ヲ以テ之

脱監越獄反獄等ノ犯罪ハ裁判官ノ處分ニシ

テ獄司之ヲ專決スルヲ得ス獄囚守卒ノ覺

客ニ自ラ門ヨリ逃由ル者之ヲ脱監ト謂ヒ墻

ヲ踰テ逃由ル者之ヲ越獄ト謂ヒ強テ恃ミ衆

ヲ恃ミ兇ヲ逞シ奮撃シ公然ト門ヲ奪ヒ逃走

獄丁其管スル所ノ外役ノ囚逃亡シ即日之ヲ

拿捕スル能ハサレハ之ヲ罰スルニ其備錢ヲ

奪ヒ懲治監ニ入ルヲ半年ヲ以テス然レモ其

平日謹敕ナル者ハ獄司之ヲ其管轄廳ニ具狀

シ寛典ヲ乞フ廳議之ヲ許セハ一月ノ俸ヲ奪
ヒ且其一等ヲ貶ス下等ノ者ハ其俸ヲ奪フノ
ミ

第九條書信

書信ヲ獄中ニ通スル者ハ獄吏先ツ之ヲ檢閲
シ害ナケレハ之ヲ聽ス獄囚ノ答書モ亦然リ
但印紙一枚ヲ與フルノ外私紙ヲ用ルヲ聽サ
ス印紙ハ縦五寸五分横八寸ニシテ獄印アル
者ヲ云フ
已決者百日以下ハ書信毎月一次徒罪以上ハ

三月一次准流以上ハ六月一次ヲ聽ス但未決
者ハ此限ニ非ス然レモ印紙及ヒ檢閱ノ法前
文ニ同シ其詳ハ繫獄書信條ヲ參照スヘシ

第十條食料

各犯ノ食料少差アリ懲役第五等ノ者ハ一日
ニ米白麥合テ七合第四等以上及ヒ殊藝并ニ
懲治監ノ囚ハ同ク五合五勺輕役寬役及ヒ未
決者ハ同ク四合十歲以下男女共ニ同ク二合

七勺麥ハ挽キ割リヲ用ユ炊熟ニ便ナリ又印
度米ノ如キ麥價ヨリ賤シキ時ハ麥ニ代

用スヘシ食料ハ未決已決ヲ論セス皆官費ト爲ス
獄囚モシ其幼孩ヲ携シテ願ヒ情實ノ己ム
ヲ得サル者ハ之ヲ聽シ亦官費ヲ以テ之ヲ養
フ

監倉ニアル未決者ヲ除クノ外各囚ノ食料皆
同シ朝夕ハ鹽菜別ニ一羹アリ晝飯ハ七日ノ
間ニ野菜三次鮮魚一次鹹魚或ハ乾魚三次合
シテ七次ト爲ス魚類ニ乏キノ地ハ牛羊豚雞
ノ骨汁ヲ用テ菜蔬ヲ煮テ之
ニ代ユ

毎日ノ定額左ノ如シ

- 一 肉類 價十文内外
- 一 野菜 同上
- 一 羹實 同上
- 一 鹽菜 同上
- 一 醬油 四勺
- 一 茶 三勺 量目
- 一 薪 二百十勺 同上

常食ノ外加給ノ例左ノ如シ

欄中月日ヲ太
 陽曆ニ改メ正
 月元日ハ一月
 一日三月十一
 日ハ四月七日
 九月廿二日ハ
 十一月十一日
 十二月廿五日
 ハ一月廿三日
 三作ル

一 正月元日 二 餅一魚
 一 三月十一日 一 魚
 一 七月十五日 素麪三椀
 一 九月廿二日 一 魚
 一 十二月廿五日 同上
 病囚ノ食ハ醫ノ言ニ從ヒ價直ヲ論セス

第十一條衣衾

獄衣ハ柿色ノ短衣窄袖股引ヲ用フ 婦女ノ衣ハ其袖ヲ窄スル
 未決者ヲ除クノ外皆之ヲ着セシム 獄衣

ヲ深ノ薄澁ヲ加ヘ久キニ耐ヘシム

獄衣ニ番號アリ墨字ヲ以テ第幾舍 獄名 第幾百

幾十幾番ト記ス

准流ノ者ハ番號背ニ在リ徒以下ノ者ハ胸ニ

在リ股引モ亦左足ニ獄名ヲ記シ右足ニ居房

ノ番號ヲ記ス其裁縫摺字皆輕役人ヲ使用ス

番號摺字ノ器械ハ圖式第十一號ニ見ユ

暑中ハ單衣一枚トシ春秋ハ裕一枚繻絆一枚
 トシ冬時ハ綿入ヲ加ヘ三枚トス單衣ハ三日

毎ニ之ヲ洗ヒ縹絆ハ五日毎ニ之ヲ洗フ
外役ノ間ハ別衣ヲ着シ歸獄スレハ衣ヲ更へ
シム包藏物ヲ豫防スル所以ナリ

獄衣更換ニ期限アリ

布品ノ精粗強弱ニ因テ
豫メ換衣ノ期限ヲ定ム

限滿レハ新衣ニ換フ妄リニ之ヲ汚損スル者
アレハ罰則ニ從フ

獄丁其管下ノ獄衣ヲ検査スル丁七日毎ニ三
次トス

各犯罪已ニ決スレハ之ニ獄衣ヲ與へ從前ノ

衣服ハ獄官之ヲ領置シ放縱ノ日之ヲ還付ス

未決ノ貧囚獄衣ヲ乞フ者アレハ之ヲ給ス

夏時ノ卧具ハ毛布一枚席一枚トス冬時ハ毛

布二枚草褥一枚ト爲ス

草褥ハ粗布ニ藁ヲ包
ミ褥ト爲ス者ナリ

枕ハ杉ノ半圓木ヲ用フ

圖式第十二號ニ見ユ

枕衾ハ守卒毎朝輕役者ニ命シテ之ヲ検査シ

汚損ナケレハ之ヲ一室ニ歛メ

室中ニ各囚
ノ番號アリ房

中ヲ掃除ス日暮又之ヲ出シテ各房ニ送ラシ

ム

病囚老囚ハ獄司醫ト議シ衾襖ヲ増加スル丁アリ

第十二條 工錢

凡役囚一等ニ進メハ其製作スル物品ヲ販賣シテ之ヲ官ニ領置シ其内ヨリ毎日錢百文ヲ給與シ放免ノ日右日給ノ百文ト毎日ノ食費トヲ除キ其殘金ハ悉ク之ヲ還付ス
工藝精シカテサルモノ一等ニ進メハ之ヲ炊夫焚夫小使等ニ役使シ毎日ノ傭錢ヲ通算シ

放免ノ日其日給ト食費トヲ減シ其殘金ヲ與ル丁前法ノ如シ但傭錢ハ普通ノ傭價四分ノ三ヲ以テ法ト爲ス外役ノ傭錢亦同シ然レ姝藝者ハ此例ニアラス

囚徒ヲ傭ント欲スル者アレハ幾連十四ヲ一連トス十

人北人卅人等ハ傭テ可シ
奇零ノ數ハ傭テ可ラスヲ以テ之ヲ談定ス

其傭錢前法ノ如シ但每連ノ獄丁往テ之ヲ監督ス

姝藝上級ノ者ハ日ニ百文中級ハ五十文下級

ハ廿五文ヲ給ス其一等ノ取扱ハ他囚ト同シ
キト勿論ナリ

監獄及ヒ器械ノ修理其他百般ノ入費皆第二
等以下總囚ノ工錢傭錢ヲ以テ之ニ充ツ

○疾病

附死 二

病囚アレハ醫診察具狀シ獄司命シテ病監ニ
移ス輕症ノ者ハ其房ニオイト保養セシムル
重病ニ至レハ醫ノ病症書ヲ裁判所ニ送ル

英ノ全國中毎
年各獄ノ入費
ヲ減シ尙ホ工
錢ノ殘金幾萬
兩有リト云フ

看病人ハ輕役人ヲ用フ

病囚ハ諸事優遇スヘシ飲食ノ如キモ醫ノ禁
セサル所ハ其嗜好ニ從テ之ヲ與フ若獄司怠
リテ醫言ニ從ハス因テ死ニ至ル者アレハ罪
獄司ニ歸ス

病囚死スレハ醫之ヲ検査シ獄司ニ報ス獄司
具狀シテ之ヲ裁判所ニ告ク

夜中ハ醫一員醫局ニ宿直ス醫局ノ使役ハ犯

人ヲ用フト雖_レ夜間使役スヘキ_トアレハ守卒及ヒ下男ヲ用フ

處刑

刑場ハ監獄場ノ一隅ニ設ク周圍其垣墻ヲ高クシ其門扉ヲ嚴ニス
繫獄ノ囚罪已ニ決ス_レハ裁判所ノ檢使證書ヲ獄司ニ附ス獄司之ヲ囚籍ニ照シテ決放シ其年月罪科ヲ附記ス
已決者病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞フ者ア

欄中ノ字ハ皆時ニ作ル

レハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官醫ノ解剖ヲ聽ス

死刑ハ朝第十字ニ之ヲ行フ其餘ハ十字ヨリ十二字ノ間ニ之ヲ行フ

大祀令節國忌等ノ日ハ刑ヲ行ハス又大風雨及ヒ非常ノ天變アレハ時ニ臨テ刑ヲ止ム

官員

附守兵備人

獄司

一名

副司

一名

書記

三名

醫師

三名

教師

女男

適宜

丁長

同上

女監長

女

一名

守卒

適宜

授業師

女男

同上

獄丁

同上

下男

同上

編中ノ字ハ皆
時ニ作ル

教師以上ヲ判任ト爲ス丁長以下ハ獄司之ヲ

選ヒ其管轄廳ノ許シヲ得テ之ヲ命ス

獄司疾病事故アレハ副司其事ヲ代理ス

醫員ハ内外科各一名調藥者一名

役囚ノ休日亦官員ノ休日ニ同シ當日第八字

ヨリ十二字ニ至ル教師ノ講義アリ總囚ヲシ

テ聽聞セシム

丁長ハ五丁ノ長タリ一丁十四ヲ管ス之ヲ一

連ト名ク

女監ノ長ハ尼及ヒ寡婦ノ行誼アル者ヲ選
女監ハ其長ノ許シニ非レハ獄司ト雖凡濫入
スルヲ得ス

守卒ハ晝夜獄内ヲ監護シ炊夫掃夫等總テ犯
人ノ使用スル者ヲ指揮ス

授業師ハ各工ノ練達スルモノヲ傭フ

授業師ハ私ニ犯人ト談話シ且犯人ノ請托ヲ
受テ他人ノ贈答ヲ致スマシキハ由ヲ證書シ
保人ノ押印ヲ具シ獄司ニ納ム其給金之ヲ世

間ノ傭錢ニ比スレハ優ナリ人ノ好マサル所
ナルヲ以テナリ

獄丁ハ皆ナ傭夫ニシテ上中下ノ三等ニ分ツ

役囚ヲ指揮スルニ鐵杖ヲ用フ

下男ハ獄署ノ雜事及ヒ他廳へ往復等ニ使用
ス

守兵ハ地方官ヨリ之ヲ出ス晝夜更番警衛ス
表門外二名各工役場一名各獄舎ノ門一名監
外ノ四隅各一名トス但監獄ノ大小ニ從ヒ適

宜ニ之ヲ増減ス

但監獄警衛ノ間ハ獄司ノ指揮ニ從ハシム
外人來ルモノアレハ門外ノ守兵其姓名及ヒ
來意ヲ問ヒ繩鈴ヲ鳴シ獄丁ヲ呼ヒ之ヲ案内
セシム

死刑申渡シ決放ニ至ルマテ守兵之ヲ看護ス
出火及ヒ非常ノ節ハ守兵ヲ増ス但豫メ近旁
ノ屯所ノ隊長ト約定スヘシ守兵ハ犯人ト接
話スルヲ禁ス

○雜則

各工ノ器械ハ之ヲ一庫ニ納メ朝夕出納ノ時
丁長之ヲ監視ス其法每朝各丁其管囚ヲ率ヒ
來リ出シテ之ヲ借ス收納ノ節ハ小使四人ヲ用テ
ヲシテ破損ノ有無ヲ検査セシム
獄中ノ官署ニ巡視簿ヲ置ク司法官員毎月兩
三次獄中ヲ巡視シ所存アレハ之ヲ簿ニ記シ
獄司ト論辯ス其情實ヲ詳ニシテ之ヲ長官ニ
呈ス

始テ入獄ノ者ハ裁判官ヨリ其郷貫姓名及ヒ
 罪犯ノ見込ヲ記シテ獄官ニ送ル獄官更ニ其
 郷貫姓名ヲ本犯ニ證シテ之ヲ囚籍ニ記シ本
ハ別ニ之ヲ次ニ其肥瘠長短及ヒ重量ヲ記ス黑
ヲ藏貯ス子癍痕アレハ亦之ヲ記ス再犯及ヒ准流以上
 其他兇頑ノ者ハ更ニ其寫真圖ヲ取り置ク可
シ逃亡ノ時逮捕シ次ニ其衣服ヲ検査シ隠物ア
ノ用ニ備フレハ之ヲ領置ス未決者ハ再ヒ其衣服ヲ着セ
 シメ已決者ハ之ヲ領置シテ獄衣ヲ着セシム

長短ヲ度スル尺ハ圖式第十三號四籍ノ書式
 ハ圖式第十四號ニ見ユ

犯囚ノ衣服諸品ハ之ヲ一庫ニ領置ス庫内ニ
 數百ノ戸棚ヲ設ケ蓋上ニ番號ヲ記ス囚人ノ
 衣物ニモ亦番號ヲ附シテ之ヲ鎖ス
 罪已ニ決シ役場ニ入ル者ハ裁判官ヨリ處決
 ノ證書ヲ獄署ニ送ル其式左ノ如シ

某府管内某村住身分

徒幾年

何

某支何族

罪文申渡全文

欄中ノ支ヲ刪ル

欄中ノ千支ヲ
刑ル

右申渡畢

年號千支月日

官名姓名

獄官證書ヲ照シテ役場ニ入ル、丁法ノ如ク
 ス但限滿テ之ヲ放免スルハ獄司ノ專任タリ
 獄官證書ニ就テ役囚ノ年月ヲ算シ滿期其年
 内ニ在レハ之ヲ早見箱ニ入ル若シ後年ニ在
 ル者ハ之ヲ別箱ニ藏貯ス 早見箱圖式第十五
號ニ見ユ
 一月間ニ數人ノ放免アレハ放免期日ノ月初

ニ在ル證書ヲ上トシ以下順序ヲ追テ納メ置
 ヘシ
 放免ノ節ハ丁長其囚ヲ引テ監獄ノ守兵所及
 ヒ邏卒屯所ニ至リ戒テ曰ク汝ノ面貌各所ノ
 兵卒皆之ヲ知ル若シ再ヒ法ヲ犯セハ直ニ之
 ヲ捕フヘシ今後惡心ヲ改メ善事ヲ行フヘシ
 ト畢テ其囚ヲ本籍ニ交附シ其由ヲ裁判所ニ
 告クヘシ
 未決者入獄ノ節初犯若クハ再三犯ヲ糺スハ

獄吏ノ專任タリ若シ再三犯ナレハ之ヲ裁判
 所ニ告ク初犯ノ者ト獄ヲ同居セシメス其惡
 事ヲ誘導スルヲ恐レテナリ
 火災非常ノ節ハ獄丁衆囚ヲ率テ之ヲ他處ニ
 避ク守兵ヲシテ之ヲ監護セシム
 病囚ノ飲食等臨時ノ入費ハ醫ノ證書ヲ取ル
 ヘシ

監獄表門ノ開閉ハ刻限ノ條ヲ參考シ日ノ出
 没ニ從フ但日中ト雖モ出入ノ外ハ其扉ヲ合

シ貫木ヲ施ス只其鎖鑰セサルノミ

監獄内ニ書庫アリ多ク佳書ヲ藏シ以テ囚人
 ノ誦讀ニ供ス

囚人ノ故郷遠地ニアリ入獄ノ後其妻孥生計
 ナク饑餓スヘキヲ訴レハ獄司ヨリ管轄廳ヲ
 經由シテ其地方官ニ傳達スヘシ

全國中前年罪囚ノ總數各役區別ノ人員諸入
 費ニ至ルマテ明細ニ之ヲ表ニ記シ每歲二月
 限リ各府縣ヨリ司法省ヘ出スヘシ
役囚及ヒ
 歲出入表

ハ圖式第十六號ニ見ユ○死刑以下五刑ノ裁斷并ニ牢死等ノ總數ハ行刑表ニ記スヘシ

獄内廁圍場ノ結構ハ尤モ注意ス可シ乾土ヲ

撒シテ惡臭ヲ防キ溝水ヲ通シテ汚物ヲ流シ

務メテ疾病傳染ノ患ナカテシム圖式第十七號ニ見ユ

凡役囚父母ノ喪ニ逢フ者ハ七日夫及ヒ兄弟

妻子ノ喪ハ三日各休役セシム

凡懲役一年以上ノ者病ニ罹リ休役スレハ一

年毎ニ五十日ハ限内ニ算入シ五十日以外ニ

過レハ病愈ル後仍ホ其欠役ヲ償ハシム懲役

一百日以下ノ者十日毎ニ二日ハ算入シ二日

ニ過レハ其役ヲ償ハシム但シ屢次ニ及フ者

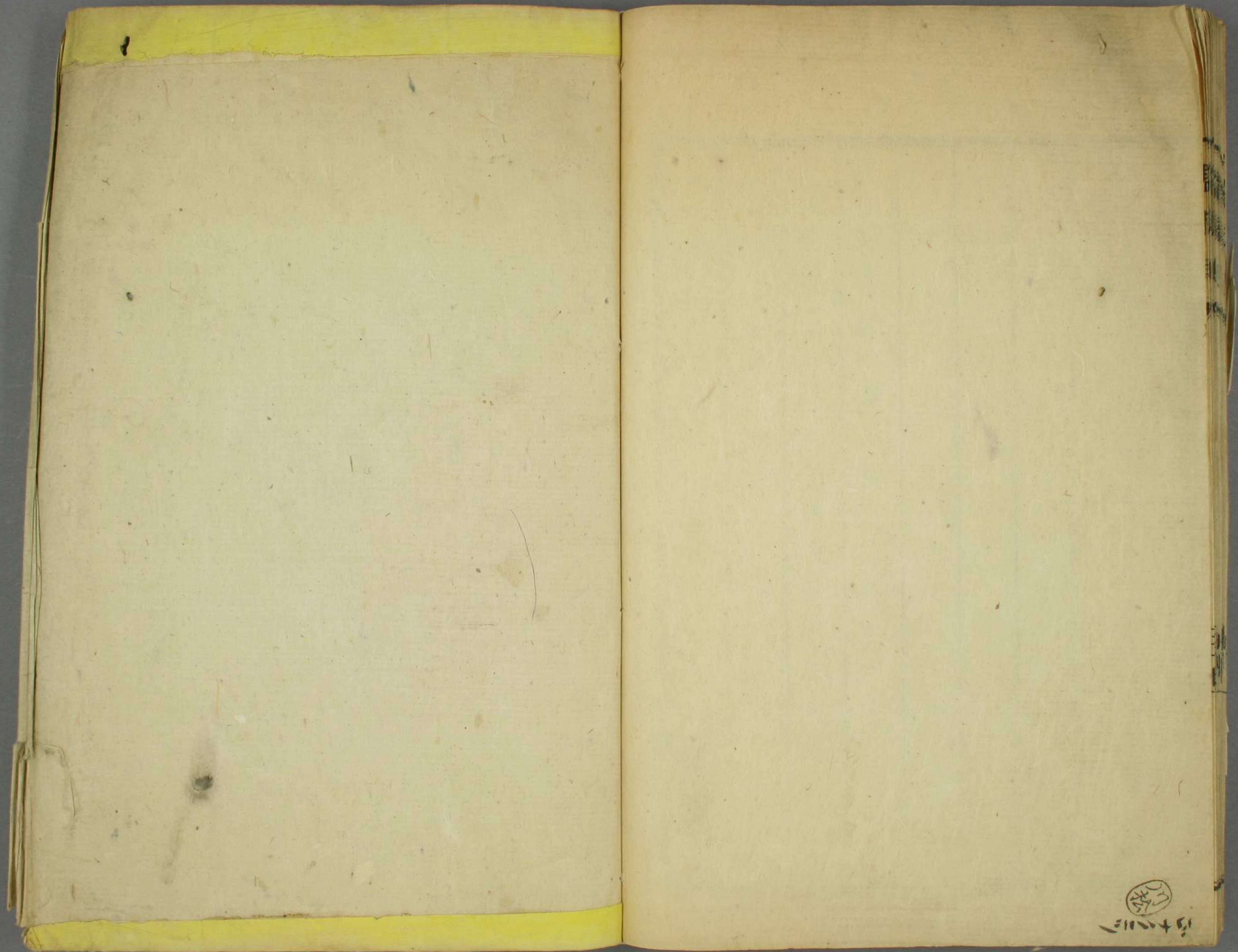
ハ前後通計合算シテ乘除ス若シ出監シテ責

付スル者アル時ハ限内ニ算入セス

						<p>日天也昔不八湖八期內之良入也</p>	<p>八國對面領念真之有懸清也昔之出進也</p>	<p>一數之入其海之難也之山也其元也</p>	<p>一百日以平之春之日也之日也</p>
--	--	--	--	--	--	-----------------------	--------------------------	------------------------	----------------------

皇極經世

皇極經世



1911
C. S.

